

# 女性とジェンダーの歴史

第10号  
2023.2

## 特集 ワークショップ：イギリス女性史と「感情」

女性史・ジェンダー史への感情史からのアプローチ

—*Votes for Women* 紙 (1907-18) を素材にして—

八谷 舞・金澤 周作 (1)

姦通をめぐる法と感情—18世紀のチャムリー家を事例として—

赤松 淳子 (9)

馬鹿にされても猫が好き？

—18世紀フランスにおける動物・感情・ジェンダー—

貝原 伴寛 (16)

コメンタリー—感情史の立場から—

森田 直子 (23)

コメンタリー—イギリス文学研究から見える感情史の展望と課題—

大石 和欣 (26)

## 論文

「正統」保守の女性思想家としてのジェイン・ウェスト

—急進主義と福音主義に抗して—

梅垣 千尋 (29)

## リレー討論「いま、女性史に問われているもの」第10回

女性史は人を救うか—パンデミックの時代に考える—

出島有紀子 (44)

## 研究会の記録

20世紀転換期英領植民地ラゴスの現地人教師に関する研究

—*Lagos Weekly Record* の記事から—

太田 淳平 (47)

## 書評

北本正章 著

『子ども観と教育の歴史図像学—新しい子ども学の基礎理論のために—』

川端 有子 (49)

広井多鶴子 編

『下田歌子と近代日本—良妻賢母論と女子教育の創出—』

(実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所研究叢書 1)

亀口 まか (51)

カトリーヌ・マラブー 著 (西山雄二・横田祐美子 訳)

『抹消された快樂—クリトリスと思考—』

高井 宏子 (53)

フィリップ・レヴァイン 著 (並河葉子・森本真美・水谷智 訳)

『イギリス帝国史—移民・ジェンダー・植民地へのまなざしから—』

堀内真由美 (54)

河村貞枝・出島有紀子ほか 著

『ナイチンゲールはフェミニストだったのか』(ナイチンゲールの越境：3 ジェンダー)

中島俊郎・福田智弘ほか 著

『ナイチンゲールが生きたヴィクトリア朝という時代』(ナイチンゲールの越境：4 時代)

浮岳 靖子 (56)

北村陽子 著

『戦争障害者の社会史—20世紀ドイツの経験と福祉国家—』

三時真貴子 (58)

杉村使乃 著

『制服ガールの総力戦—イギリスの「女の子」の戦時貢献—』

佐々木陽子 (60)

高田京比子・三成美保・長志珠絵 編

『〈母〉を問う—母の比較文化史—』

野々村淑子 (62)

桑原ヒサ子 著

『ナチス機関誌「女性展望」を読む—女性表象、日常生活、戦時動員—』

北村 陽子 (64)

エリカ・ダイアン・ラバポート 著

(佐藤蘭香・成田美美・菅靖子 監訳、三井淳子・藤田晃代・坂口美知子 訳)

『お買い物は楽しむため—近現代イギリスの消費文化とジェンダー—』

真保 晶子 (66)

イギリス女性史研究会